

育の國家統制論を生ずるに至りし事かゝる學校論の發達に對應する藩黨の發達はその方針を人文主義より實科主義へ轉向せしむるに共に寺小屋教育法が藩黨に浸入し同時に庶民に對する藩黨の解放が行はれその間に郷學の發生を見たがこれぞ公學校觀念の實現を意味するものである。もし次いで寺小屋教育の本質を顧みてこれを初歩的庶民的なりし最後に寺子屋の普及を論じてその發達が民衆の經濟生活と併行的關係にありし事及庶民の文化的欲求の絶えざる向上によるものとした。如上の見解は近世庶民教育の性質に關する略妥當なる把握をすべく著者が日本教育史料その他のいはゞ有りふれたる資料によりつつこの業績を挙げられた事は最多とせねばならぬ、なほ著者が研究の中心とするところは往來物であり本書はその序論をなすものであらう。四冊を以て完結せんとするその研究の速かに成らんことを切望する。（菊判四五八頁 東京刀江書院發行、價四、二〇〔肥後〕）

● The Documents of Iriki Dr. K. Asakawa

亞米利加イエール大學史學科教授ドクトル朝河貫一氏

の多年の勞作である入來院文書の英譯が、同大學歴史出版物の第十三冊として發行された。入來院文書は、その含む文書種類の豊富の故に、又年代の前後多年に亘れる故に、日本封建制度の研究に恰好なる資料を提供する。この見地から朝河氏は往年歸朝の際親く同家を訪ひ文書の原本を精査された成果を以て、封建制度そのものについてより正しき理解を得る爲に我國のそれに比較資料を求めんとする西洋の學者達の要求に應じて、又彼等が我國の封建制度を僅かに我國の學者の著作を通じて知るにすぎない不滿を満す爲に、始めて此代表的資料を提供してその直接研究に役立てんと試みられたものが本書である。従つて本書は文書の忠實な紹介を主たる目的とするものであつて、文書の上に組立てられた氏の研究成果はこれに據つて期待されるべきではなく、各自の研究によつて學說を組立てんとする學者にその源泉を提供せんとするものである。

四六倍判四四二頁、最初の卅六頁は南九州の地理的文化的特性、島津莊、島津家、澁谷家、入來院、入來院文書

の項に就いての豫備知識が記される。次に四十五頁を費して文書に見えた封建制度上の種々の要點―土地の起原と變遷について、主従の領主相互の・領主と將軍との、朝廷との間に生じる種々の關係について、政治的、法制的、經濟的、制度について等、封建制度の中に内在する事象に就いての索引が作られてゐるが、その際西歐封建制度に就いて造詣深き著者はこれらの點に就いて兩者の（特に佛蘭西と）間に存在する差異について有益な指摘を試みられてゐる。これによつて文書はその持つ内容の總ての方面から觀察され、人は之を辿る事に依つてこの文書に示された日本封建制度の特質に就いて善き理解を持ち得るであらう。而かもこの示唆に富んだ記述すらも、著者はたゞ資料そのものゝ提供を目的として學者各自の研究を俟つ上から一の試みにすぎない謙遜されてゐるが、文書を死物としてでなしに實際生活の記録として取扱ひ、それをかゝるつゝしまやかな形式で示さるゝ著者の學者的良心の閃きを見て感謝を捧げぬものはあるまい次に文書研究に使用された書籍目録が七頁あつてから文

書の翻譯と其解説及び脚註に二百五頁を費されてゐる。文書は最も原文に近い形で、正しき意味を傳へんことを試みられ、各文書のはじめ毎にその一般的性質の説明、固有名詞に就いて要領を得た註釋、或は文書の意味する封建的特色に就いての適切な指摘が見得られて、始めて此等の資料に接する歐米の學者にも文書の意味の理解に困難を感じないであらうだけの用意が備へられて、尙入來院家譜の解説三十八頁と索引二十一頁が附加されてゐる。斯る忠實なる紹介に依つて、入來院文書は始めて單なる日本の西南における一地方の現象としてでなく、人間生活の一記録として世界的に理解されるであらう。卷末に文書が附加されて原文との對照に便を與へられてゐる〔藤〕

● 明治維新史

井野邊茂雄著

本書はロゴス叢書の第二編として刊行されたもので、筆を黒船の渡來に起し、安政の開國、公武の衝突、公武の合體、討幕の機運、王政復古、維新の成果、結論の八章に分ちて明治維新史の梗概を平明に叙述してある。全